

平成 29 年度 いじめ・不登校等対応実践研究のまとめ

～いじめを見逃さない、いじめを許さない学校づくりに向けて～

【実践研究校】

上越市立頸城中学校・上越市立南川小学校	妙高市立新井中学校・妙高市立新井小学校
三条市立大崎中学校・三条市立大崎小学校	十日町市立水沢中学校・十日町市立水沢小学校
南魚沼市立塩沢中学校・南魚沼市立塩沢小学校	村上市立村上第一中学校・村上市立村上南小学校
新発田市立本丸中学校・新発田市立外ヶ輪小学校	阿賀野市立水原中学校・阿賀野市立水原小学校

この事例集は、平成 29 年度の「いじめ・不登校等対応実践研究」の指定中学校区において、いじめ問題等への対応の取組から得られた、参考となる実践をまとめたものです。

人間関係づくりの能力の育成

【小中の交流を通して絆を深めた事例】

『学区の小学校運動会に中学校の応援団が参加して激励応援を実施』 <小中合同>

5月に行われた小学校の運動会で中学校応援団が参加し激励応援を行いました。午前の部が終わったところで、制服を着た応援団9名がグラウンド中央に登場し、運動会の成功を祈念した応援を行いました。小学生はもちろん、保護者や地域の方からも称賛の拍手をいただいたり、お世話になった先生方からたくさん褒めていただいたりして、今後の応援活動の励みとなりました。



『中1ギャップ解消に向けた“深めよう絆集会”の実施』 <小中合同>

今年度は、中学校区「深めよう絆集会」を2回に増やして取り組みました。

1回目は中学校での授業見学と小学校7校の6年生による児童同士の交流活動を行いました。中学校の雰囲気味わったり、他校の小学生とレクリエーションを通じて自己紹介したりすることで、小学生が抱えている「他校の児童とうまく関わることができるか」という不安感や中学校生活に対する不安感の軽減につながりました。

2回目は、中学生による中学校年間行事や部活動、生徒会委員会などの学校紹介やいじめ防止に関する劇、小学6年生と中学1年生による交流活動、そして、部活動体験を行いました。中学生とより多く関わるようにすることで、小学生にとっては、中学生に対する憧れや入学後の期待感の高まりにつながりました。また、中学生にとっても、小学生と交流する中で相手を思いやる言動が多く見られ、自己有用感が高まりました。



『小中合同による城の清掃活動』 <小中合同>

市のシンボルであり学区に位置する城を自分たちの手で清掃したことは、地域とともに歩む学校づくりとして効果的な活動でした。閉会式では6年生の児童から、「中学生から清掃の仕方を教えてもらい、ありがとうございました。」と感謝の言葉があり、連携の意義を感じました。



『社会性育成プログラムに基づく小中交流』＜小中合同＞

人間関係づくりの能力等を包括した社会性の育成を目的とした「社会性育成プログラム」を作成し、計画に従って実践しています。具体的な取組として、主に次の活動をしています。

「小中合同あいさつ運動」

春と秋の2度、小中学校玄関と共通の通学路で、児童生徒が一緒に行います。



「合同陸上練習」

市内小学校陸上大会に向けての練習を、中学校陸上競技部がサポートします。



「小中交流ウイーク」

6年生が中学校に来校し、授業体験・部活動体験を行います。最終日には小学校5、6年生、中学生、地域の方々で「夢づくり絆集会」を行います。



【異学年交流を通して絆を深めた事例】

『みんなで遊ぶことは“楽しい”と感じる経験を重ねる取組』＜小学校＞

昨年度は、前後期1回ずつ、班単位で遊びを決め、ドッジボールや鬼ごっこなどをしました。今年度は、「全校ふれあいタイム」として、全校が体育館に集まり、生徒指導部の企画・運営のもと、ふれあい活動（ゲーム）を行いました。その場で感想を聞くことで、楽しかった気持ちを共有することができ、異学年で意見を出し合い認め合うことで、互いに気持ちのよい時間を過ごすことができました。



『豊かな体験活動を通じた“いじめをしない・いじめをさせない人間関係づくり”の取組』＜小学校＞

2学期に行ったウォークラリーでは、年間を通してかかわりをもつ、縦割り班で活動しました。6年生を中心に高学年が、低学年児童のリュックを持ってあげたり、体調を気遣いながら歩いたりし、励ましの言葉を掛ける姿が多く見られました。各学年にかかわるクイズが出題されたポイントでは、「〇〇ちゃん、すごいね。」「〇〇さんのおかげでクリアできたよ。」と、仲間を称賛する言葉も聞かれました。



『異学年交流活動（なかよし友だちチーム）…ふれあい給食&ふれあい遊び』＜小学校＞

異学年交流活動では、低学年は「最後まで誰とでも仲良くする」、中学年は「みんなのよいところを見つけ、協力する」、高学年は「リーダーとして班をまとめる」という目標を設定し、ふれあい活動を行いました。ふ



れあい遊びやふれあい給食、児童朝会での交流を通して協力したり、高学年はリーダー性を発揮したりして、仲良く遊んだりかかわったりする姿が見られました。

【コミュニケーションスキルの向上を目指した事例】

『地域とともに行う“あいさつ総会”の取組』＜小中合同＞

「あいさつ」＝「コミュニケーションスキル」として、「あいさつからいじめをなくしていこう」と位置づけて活動を展開しました。

1 前期・後期あいさつ総会

(1) 前期あいさつ総会

あいさつの必要性を考えた後、学区で目指すあいさつ像（自校の「あいさつプラン」）を考える会としました。地域の方からも参加していただき、大人から見た地域の小中学生のあいさつの実態やあいさつが良くなるためのアドバイスをしてもらいました。



(2) 後期あいさつ総会（絆集会）

2回のあいさつ交流を経て、今年度の自分のあいさつの課題、自校の課題を発表し、理想のあいさつを地域の方も交えたグループごとに考え、場面ごとにロールプレイをし、全体に発表しました。

『“あいさつ交流”の取組』＜小中合同＞

1 あいさつ向上集会

学区の小学校長から、各小学校のあいさつの課題と願いを伝えていただき、中学生として、小学生の手本となるようなあいさつを考えました。ここでの話し合いで出た意見や考えを参考にして、あいさつ交流を迎えるようにしました。

2 小中合同あいさつ交流準備会

あいさつ交流での注意点や当日の流れについて、各校の代表生徒が集まり事前打ち合わせを行いました。

3 小中(P)あいさつ交流

あいさつ総会、向上集会を経て、小中学生と一緒に各小学校や地域であいさつ活動を6月と10月の2回行いました。10月の活動には、保護者からも参加していただきました。



『計画的な全校一斉ソーシャルスキル教育の実施』〈小学校〉

生活目標とかかわらせて、学期に2回ずつ、年間で計6回、あたたかいメッセージを伝え合う全校一斉ソーシャルスキル教育を実践しました。担当学年が生活朝会でスキルについて発表や呼びかけをし、各学級でもペアやグループで学び合うことで、心地よさを味わわせ、定着を図りました。たけのこ（縦割り）班、ピア・サポートなどの異学年集団での体験活動等を通して、人間関係づくり能力の育成に取り組みました。

『全校ソーシャルスキル教育と縦割り班交流活動をかかわらせた指導』〈小学校〉

相手も自分も大切に話す話し方や気持ちの伝え方の定着を目指して、「全校SSE（ソーシャルスキル教育）」に取り組みました。全校集会で教師のモデリングを見た後、学級や学年で望ましい行動を実際にやってみるといった流れで、年3回取り組みました。

また、全校SSEの後には、児童会イベントなどの縦割り班交流活動、地域の方や保護者が先生役となり、子どもたちが様々な遊びやものづくりを体験する地域連携活動、3年生以上の各学級がゲームセンターなどのお店を企画・運営し、全校を楽しませる児童会イベント等の活動を行いました。活動ごとに「めざす子どもの姿」を設定し、事前指導と振り返りを大切にしながら取り組みました。

子どもたちは、それぞれの活動の中で全校SSEで学習したスキルを使うことでそのよさを実感し、普段の生活の中でも上手に他者と関わることができるようになりました。

いじめを深刻化させないための取組

『いじめ見逃しゼロ運動（イエローリボン運動）の実施』〈小学校〉

第1回いじめ見逃しゼロ運動（6月1日～7日）では、生活安全委員会の児童が毎朝、教室に行って、「いじめをしない・させない・許さない」と各学級の児童と一緒に唱え、いじめ見逃しゼロを誓いました。また、全校SSEでは、職員が演じる劇を通して話を聞くことの大切さを学んだり、全校児童がいじめ見逃しゼロ標語を作り、いじめについて話し合ったりしました。



第2回いじめ見逃しゼロ運動（11月22日～29日）では、委員会の児童が作成した“いじめに関するアンケート”を実施し、児童自身のいじめに対する認識や言われて嫌な言葉、嬉しい言葉などの実態を調査して報告することにより、いじめはどんな理由があっても絶対に許されないことを全校に訴えました。また、日常生活で起こりそうな出来事を委員会の児童が劇にして演じ、いじめについて考えたり話し合ったりして、これからの生活に生かすようにしました。

『いじめゼロスクール集会における異学年グループ討議の実施』〈中学校〉

全校生徒が異学年で小グループを作り、いじめに対する討議を行いました。上級生が司会者となり、「いじめはなぜ悪いのか」「いじめをなくすには」等の質問に対して、下級生は真剣に自分の考えを導き出そうとしていました。話し合いでは活発な意見が交わされ、人間関係づくりの面でも有効な活動となりました。

『各学年の実態に応じた生徒によるいじめ防止授業』＜中学校＞

「いじめ実態調査」から見えた各学年の課題・実態に対して学年生徒会を中心にロールプレイ、討論会を行いました。

【1年生】いじめになりそうな場面を学年委員生徒がロールプレイを行い、どの場面がいじめに当たるか、被害者・加害者・傍観者の立場で状況を考え、いじめに発展しないための方策を考えました。最後に自分自身や自分の回りでいじめを起こさないための行動宣言を考え、掲示しました。

【2年生】「いじめ」と「いじり」について考えました。事前に学年でアンケートを取り、アンケートを基に「いじり」から「いじめ」へ発展しそうな場面を学年委員がロールプレイをし、1年生と同様に被害者・加害者・傍観者の立場でその時の気持ちや状況を考えました。その後、「いじり」について個人→班で考え、学年全体に向け発表しました。最後に「いじり」についても人の嫌がる「いじめ」同様のものであることを共有し、自分の考えをまとめ、行動目標を設定しました。

【3年生】「自分の悩みを大人に相談できますか？」をテーマに討論会を行いました。大人に相談できる派、できない派に分かれ、それぞれの意見をまとめ、発表をしました。また、各派に生徒によるコーディネーターを配置し、それぞれの派を代表して討論を行いました。ここで出た意見を持って、9月末に行われた「深めよう 絆 県民の集い」に生徒会長が参加しました。

いじめの未然防止に向けた取組

『小中合同道徳・心の講演会の実施』＜小中合同＞

11月に中学校PTAが主催した心の講演会では、歌う道徳講師シンガーソングライター大野靖之さんのライブを「命・家族・愛」をテーマにして開催しました。このライブには中学校区の小学6年生を招き、中学生とともに鑑賞しました。

各小中学校では、大野靖之さんの歌詞を資料に事前に道徳の授業を行い、当日のライブでは、大野靖之さんの歌や歌詞に込められた思いを体感することができました。

その後の振り返りでは、命の大切さ、家族のありがたさを確認しました。さらに、昼の部に来られなかった保護者や家族を対象として、夜の部も実施しました。約600名の参加があり、家庭に帰ってから共通の話題として「命・家族・愛」について考えを深めることができました。

『“いじめは絶対にいけない” という土壌を作る』＜小学校＞

年に2回行う『いじめ見逃しゼロスクール集会』では、児童会運営委員会によるいじめ防止に関する劇や、6年生の作文から、「いじめは絶対にいけない」ことを確認する機会をつくっています。

この他にも全校朝会での校長講話を始め、年に何度も伝える場を設けることで、「いじめは絶対にいけない」という土壌をつくっています。



『いじめをしない、させない行動宣言』＜小学校＞

いじめ見逃しゼロ強調月間に、6年生がNHKの「いじめを考えるキャンペーン 100万人の行動宣言」に倣い、児童朝会で全校児童にPRして行動宣言を募集し、廊下に掲示しました。

いじめの早期発見・即時対応に向けた取組

『Q-Uアンケートの活用、全児童との教育相談「ふれあいデー」の実施』〈小学校〉

6月と10月に全校児童に対してQ-Uアンケートを行い、学級担任がアンケート結果の分析を行いました。アンケートの実施後、子どもを語る会を開催し、分析結果を持ち寄って、学年や学級の課題を職員で共有し、その後の方策について協議しました。

Q-Uアンケート実施後には「ふれあいデー」を設定し、担任が学級の児童全員と教育相談をしました。アンケートの結果を基に、気になる児童に対しては、普段感じている困り感を丁寧に聴くようにしました。相談の中でいじめの疑いやいじめにつながるような問題が分かった場合には、担任はすぐに管理職や生活指導主任に報告するようにしました。管理職の指導の下、職員の分担を決め、即時に事実確認を行うようにしました。

報告があった事案については、大きな問題に発展する前に解消し、担任に話してくれた児童は安心して過ごすことができました。

『校務システムの掲示板を活用した、全職員による共通理解と共通指導』〈中学校〉

毎朝、生徒指導主事が校務システムの掲示板に、前日までにあった生徒指導事案や継続している指導、または全職員で行っていく指導事項を入力しました。職員は掲示板を確認してから教室に向かうようにしました。このようにして、すべての職員が生徒の状況を共通理解し、共通した指導を行うことで、ぶれない生徒指導に繋がりました。

全職員参加の終礼は、毎週月曜日の放課後に30分間行いました。ここでは毎朝の掲示板の情報に加え、その後の様子や対応について、共通理解を図るために情報交換シートを作成し、学年を超えた情報や特別支援学級での様子など、細かな面の情報交換を行いました。また、当中学校は不適応生徒と不登校生徒の増加が喫緊の課題となっていることから、「次の一手」と題して全職員でピックアップした生徒について考え、心を開かせる話題などの情報を共有する場面を設定しました。

『月末アンケートによる生徒の見取り』〈中学校〉

毎月末の終学活を10分延長し、全校一斉でアンケート用紙に記入する時間を作りました。共通のアンケート用紙を使用し、生徒指導主事の放送による合図で、配付、記入、回収を行いました。

生徒の心情が分かるような項目のアンケートに対して、今の気持ちを5段階でチェックしました。また、困っていることや、今自分が興味をもっていることなどを文章で書いてもらいました。このように一人一人がアンケートに記入する時間（向き合う時間）を確実に作ることで心の安定を図りました。

アンケート後、5段階の1に○を付けた生徒には、必ずチャンス相談の場を設けて、担任が丁寧に話を聞きました。アンケートを繰り返すことで、周りで困っている生徒について情報をあげてくる生徒が増えました。いじめを見逃さない、許さないという意識が高まり、いじめの早期発見に繋がりました。

『中学校入学前に児童及び保護者と面談して、見通しをもって対応した事例』〈小中合同〉

小中連携委員会「生徒指導部会」を中核とした、①小中教員の情報交換、②児童・生徒の交流、③小中教員の授業交流、④保護者や地域との連携の取組により、暴力行為は減少しているものの、人間関係形成能力や規範意識の不足等に起因すると考えられる問題行動が、依然として課題となっていました。特に、問題を抱える生徒及びその保護者とのケース会議等を随時実施しなければならない状態にありました。さらに小中連携の質を向上させ、小学校時の指導を生かし、中学校段階で必要な指導を行う必要があるため、2つの方策に取り組みました。

①小中教員の情報交換



分掌毎にそれぞれの学校の様子を担当者で情報共有する

②児童・生徒の交流



他にも、体験入学、いじめ見逃しゼロスクール集会など

③小中教員の授業交流



それぞれの担当で、通常の授業や学校生活も視察する

④保護者や地域との連携



年3回の生活コントロールチャレンジ、学校運営協議会、地域連携ボランティア活動などを計画的に実施

1つ目は、小学校時から現れている問題行動を小学校教員（6年担任）から情報収集し、中学校教員（生徒指導主事、特別支援教育コーディネーター）が授業視察を行ったことです。2つ目は、問題性が高く、集団に影響がある事案や、集団から大きく逸脱している事案は、中学校に入学する前から、児童本人やその保護者と中学校の職員が積極的に面談をする機会を設けたことです。面談では、共感的な姿勢で、本人の困り感を聞き取ることを中心として、それに応じて中学校での指導方法やその意味について説明しました。

面談では、どの児童も「中学校に入学したら頑張ろう！」という強い決意をもっています。その気持ちが形になるよう児童本人や保護者、小学校の担任の先生と面談を行いました。本人に応じた指導ができるよう、多くのヒントをいただき、指導の信頼を築く上で大きな要因となりました。